GDPR対応状況　簡易診断

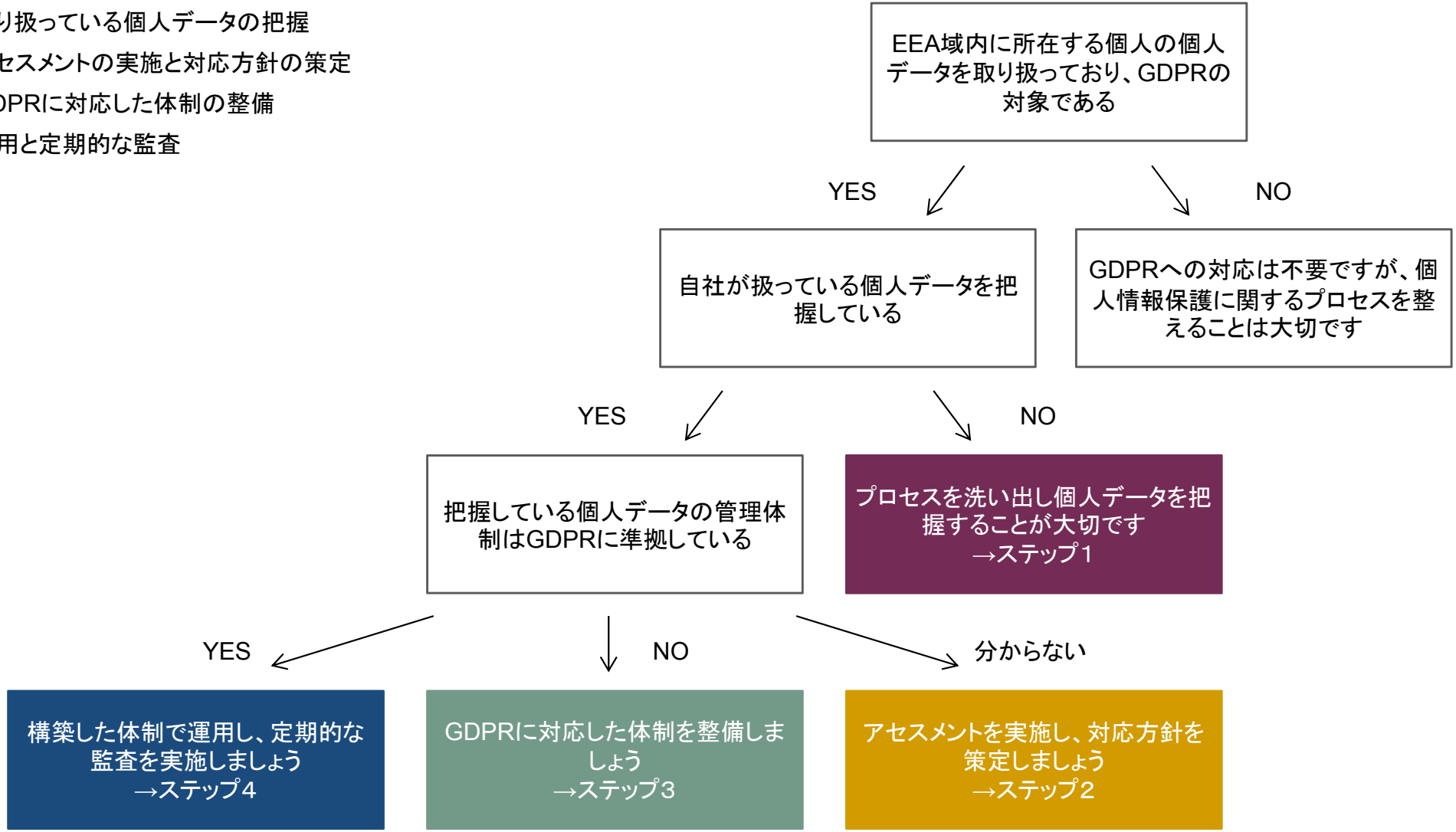
(簡易診断ですので、目安となります)

■ まずは自社の対応状況がどのステップか確認します

GDPR対応ステップ

1. 取り扱っている個人データの把握
2. アセスメントの実施と対応方針の策定
3. GDPRに対応した体制の整備
4. 運用と定期的な監査

GDPR対応状況　簡易診断



各ステップでの実施タスク

- 自社の対応状況を確認後、GDPR対応に必要な体制を構築しましょう
- それぞれのステップで必要な、代表的なタスクを挙げます

GDPR対応ステップ

ステップ1 取り扱っている個人データの把握

自社の業務プロセスを洗い出し、取り扱っている、EEA域内に所在する個人の個人データを把握しましょう

代表的なタスク

- 個人データを扱っている可能性のある業務プロセスの洗い出し
- 取り扱っている個人データの把握
- 各拠点や部署へ、取り扱いデータの確認

利用可能な外部のサービス

- iGrafx for GDPR+

ステップ2 アセスメントの実施と対応方針の策定

自社の状況を把握し、対応方針を策定しましょう

代表的なタスク

- 管理体制確認
- 個人データの収集方法確認
- 個人データの取り扱い体制確認
- 個人データの取り扱い手順確認
- データ保護オフィサー設置要否確認
- データ侵害発生時や障害発生時の対応状況確認
- 拠点の対応状況確認

利用可能な外部のサービス

- アセスメントサービス

ステップ3 GDPRに対応した体制の整備

前ステップで策定した対応方針をもとに、体制を整備しましょう

代表的なタスク

- 規程類の整備
- 管理体制の整備
- 取り扱い体制の整備
- 取り扱い手順の整備
- データ侵害発生時や障害発生時の対応方法整備
- 他部署との連携構築
- 拠点の体制整備
- 従業員への周知

利用可能な外部のサービス

- コンサルティングサービス（体制構築支援など）

ステップ4 運用と定期的な監査

整備した体制がその通りに運用されているか、定期的に確認を実施しましょう

代表的なタスク

- 整備した体制が適切に運用されているか、定期的な確認
- 体制や手順の改善

利用可能な外部のサービス

- コンサルティングサービス（運用支援、定期監査など）